

再 評 価 調 書

整理番号	3
担当部局	土木部道路建設課

1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名称	一般県道 常総取手線
(3)事業主体	茨城県	(4)箇所名	つくばみらい市古川～成瀬
(5)採択年度	2019年度（平成31年度（令和元年度））	(6)完成予定年度	2025年度（令和7年度）
(7)事業目的	・一般県道常総取手線は、主要地方道つくば野田線と主要地方道野田牛久線を接続する重要な幹線道路である。 ・常磐自動車道（仮称）つくばみらいスマート IC が令和元年9月に事業化され、大型車などの交通量の増加が見込まれることから、機能強化を図るため、つくばみらい市古川～成瀬までの約1.6kmの現道拡幅整備を行うものである。		
(8)事業内容	・事業延長 L=1,600m ・計画幅員 W=13.0m（2車線） ・用地買収、地盤改良、改良工事、舗装工事		

2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再々評価（事業費の変更）	(2)当初完成予定	2023年度（令和5年度）
(3)未着工・事業が長期間要している理由	—		
(4)前回指摘事項に対する対応状況（再々評価の場合）	委員会の意見	対応状況	
	継続することが妥当である。	指摘を踏まえ、工程管理に努めた結果、2025年度（令和7年度）中には完了する予定。	

3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	【理由】
(2)事業内容の変更	【理由】
(3)事業費の変更	1,200百万円 → 1,500百万円 300百万円増 【理由】昨年度の地質調査の結果を踏まえ、地盤改良材の配合量を変更し、工事費等が増加するため。

4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全 体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量(m)	1,600	0	0	0.0%
事業費	工事費	1,391	395	58.3%
	用地買収補償費	109	34	91.7%
	計(百万円)	1,500	429	60.1%
(2)関連事業の進捗状況	・常磐道（仮称）つくばみらいスマート IC が整備中 ・取手つくば線バイパスが2023年（R5）7月に開通 ・圏央道インターパークつくばみらい（工業団地）が整備中			
(3)今後の見通し	工 事	用 地 等		
	順次工事に着手し、早期の完成を図る。	令和5年度に全ての用地取得が完了した。		

5 評価内容

(1) 事業の必要性	・ (仮称) つくばみらいスマート IC が整備されることにより、大型車などの交通量の増加が見込まれることから、機能強化を図る必要がある。 ・ (仮称) つくばみらいスマート IC 及び常総取手線を整備することにより、谷和原 IC 付近の国道 294 号や谷田部 IC の取手つくば線の混雑区間の交通転換を促し、周辺道路の混雑緩和を図る。 ・ 災害時に防災拠点となるつくばみらい市役所へのアクセス道路となり、緊急輸送道路にも位置づけられていることから、機能強化を図る必要がある。					
	社会情勢等の変化に関する指標 1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標 2	計画時の状況	現時点での状況
	常総取手線 24 時間交通量 (つくばみらい市古川)	8,584 台/日 (R1 交通量 調査結果)	9,268 台/日 (R3 センサ)			
(2) 事業の有効性	本事業の実施により下記の効果が期待でき、事業は有効である。 ・ 本整備区間の通過にかかる所要時間は約 1 分短縮が見込まれる。 ・ 混雑区間における交通転換が図られることで、主に谷和原 IC 周辺道路の混雑緩和に寄与することが期待される。					
	効果予測に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標 2	事業なし	事業あり
	つくばみらい市古川～成瀬の通過時間 (R22)	3.9 分	3.0 分			
	効果算定要因に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標 2	事業なし	事業あり
	将来交通量 (R22) 常総取手線	8,900 台/日	10,900 台/日	将来交通量 (R22) 国道 294 号	39,300 台/日	38,600 台/日
(3) 事業の効率性	ア) 主な効果 (B) ① 本路線の整備により、走行時間の短縮 (約 1,771 百万円)、走行経費の減少 (約 89 百万円)、及び交通事故の減少 (約 33 百万円) が図られる。(計 1,893 百万円) ②常磐自動車道 (仮称) つくばみらいスマート IC が現在整備中であり、完成後は当該路線がスマート IC へのアクセス道路として、つくばみらい市内及び周辺市から連絡強化が期待される。 ③北側の工業団地の企業立地が進んでいることから、当該路線がスマート IC へのアクセス性を強化し物流機能の向上に資する。					
	イ) 主な費用 (C) ※現在価値化：令和 6 年度 ①事業費 1,550 百万円 ②維持管理費 135 百万円 計 1,685 百万円 主な効果のうち貨幣化が可能な①について事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C= 1.1					
(4) 地元の意向	(仮称) つくばみらいスマート IC のアクセス道路であるため、スマート IC の事業主体であるつくばみらい市から整備要望を受けている。					
(5) コスト削減や代替案立案の可能性	土工における土量の過不足について、近傍で実施している他事業と工事間流用を調整する事により、コスト削減を図る。					

6 対応方針

（仮称）つくばみらいスマート IC のアクセス道路であるため、スマート IC の完成に間に合うよう、事業推進を図る。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し、事業を進める。

